



松永久秀 篇1

戦国のボンバーマン？

松永久秀という奈良の東大寺を焼いた人、最後の主君である織田信長を裏切り、信長にお城を攻められ茶釜抱いて爆死した人という戦国時代の代表的な悪事を働く人物が一般的なイメージだと思います。ほかに、室町幕府16代將軍足利義輝と主君の三好義興の殺害などがありますが、近年の研究ではそういった事実是否定されつつあります。最近では大河ドラマ「麒麟がくる」で吉田鋼太郎さんが演じていますし、戦国時代を舞台にしたゲーム等でもたびたび登場しています。今回を含めて3回で真実の久秀像にできるだけ近づきたいと思います。

久秀の出自には諸説ありますが、大阪の高槻市付近が有力とされています。久秀は、最初の主君である三好長慶みよしながよしに弟の長頼と共に仕えます。久秀は弟と共に、京都の亀岡市あたりを攻めるなどして功績をあげていきます。当時の都である京都市内にいた將軍義輝を追い出して長慶が治めると、久秀は、朝廷や寺社等の交渉役をしています。こうした実績から長慶は、久秀を抜擢し、滝山城（神戸市中央区、新神戸駅の裏山）を与えます。ここでは、今の大河ドラマでもありました連歌会れんが（一つの和歌を複数人で作るイベント）を主君の長慶呼んで開催されたことが記録に残っています。ただ久秀は長慶の側近として長慶のそばにおり、滝山城にはあまりいなかったようです。

そんな中、長慶は、久秀に奈良へ攻めるよう命令します。久秀は宇陀にも侵攻してきます。次回からは奈良に派遣される様子を見ていきます。

